

令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①SSH の取組と各教科での取組を相関させ、問題解決能力の育成を図る。 ②新たな教育課程に基づく生徒の進路実現を達成するために指導環境の整備と教育課程の検証・改善および生徒の学習体制の構築を行う。	①ICT を活用した授業展開を行い、学習内容の質を高めるとともに、SSH の取組と教科の取組を結びつける。 ②「指導と評価の一体化」を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、生徒の自主的な学習の向上を促す。	①各教科で、引き続き授業改善に取り組み、ICT を効果的に活用する。 ②デジタルポートフォリオ等を利用し、生徒一人ひとりが教科を越えて学びの総活ができる仕組を構築する。 ③指導と評価が一体化した年間指導計画を整え、教科を越えて主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を進める。	①各教科で、授業改善に取り組み、その成果としてデジタルポートフォリオの活用ができたか。 ②指導と評価が一体化した年間指導計画が立てられているか。 ③教科を越えた授業改善が行われたか。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①日々の学校生活や生徒会活動の場面で、自発的・主体的に行動できる人材の育成を図る。 ②教育相談体制を充実させ、支援が必要な生徒に対して柔軟な働きかけを行う。	①学校行事や部活動など学年を越えた集団活動を通して、個々の役割を自覚し、それぞれの責任を果たす姿勢を身に着けさせる。 ②教育相談体制を整え、組織的な支援ができよう生徒の情報を職員全体で共有し、すべての生徒が健康で安全な学校生活が送れる体制を整える。	①主体となる生徒との連携を密にし、情報共有を行い、支援・指導が必要なポイントを絞り、安全で安心な活動を保障する。 ②各学年の教育相談担当者を中心にはじめ、学年会等を通じて生徒の現状を把握し、定期的な情報共有の機会を設定する。また、家庭やSC・SSW と連携を図りながら課題の解決をサポートする。	①健康的で安全な行事が実施されたか。生徒の主体性を支援することができたか。 ②定期的な情報共有の機会が設定できたか。 ③課題を抱える生徒に対し、様々な視点を持った多くの職員が関わることによって、多角的に支援することができたか。
3	進路指導・支援	①なりたい自分を探求し、その実現を目指すための進路行事や学習活動を充実させる。 ②個別面談、教員研修を通じ、新たな教育課程や入試制度に柔軟に対応することのできる支援体制を構築する。	①生徒の個々の進路目標を見据えた進路指導・進路行事を計画し、その充実を図る。 ②面談や模擬試験の機会を活用し、生徒の悩みや進路実現に向けた適切な支援を行う。	①生徒が多様な選択肢を理解し、具体的な進路をイメージできるような進路指導・進路行事を計画し、その充実を図る。 ②模擬試験の振り返りや面談を通して、生徒の強みや弱みを把握し、具体的な対策や学習計画を支援する。	①適切な時期・内容でキャリアガイダンスを行うことができたか。 ②模擬試験の振り返りや面談を通して、生徒の課題の把握やフィードバックができたか。
4	地域等との協働	①家庭や地域、同窓会等との協働を進め、信頼される学校作りの更なる発展を目指す。 ②SSH の活動において他の教育機関や企業・地域との連携を強め、コンソーシアムの構築を目指す。	①保護者や地域住民等と協働・連携した教育活動や地域貢献活動等を充実させ、様々な手段で外部に発信する。 ②今年度より課題研究で実施する外部メンターによる指導・助言を受ける体制を整え、課題研究の内容の充実をはかる。	①学校ホームページ、学校説明会、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて、地域の小中学校と連携した実績やSSH の取組について発信する。 ②①同窓会活動への理解を深めるために協働して活動の改善点を検討していく。 ③外部メンターとして生徒に指導・助言を定期的に行ってもらう。	①学校ホームページ、学校説明会、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて本校の取組を発信できたか。 ②同窓会と連携し活動への理解が深められたか。 ③同窓会入会者の数が増えたか。 ④外部メンターの方から直接指導を受けた班の数および指導を受けた回数で図る。
5	学校管理 学校運営	①働き方改革に向けて、Teams や ICT 機器の使用方法を更に思索し業務の効率化を図る。 ②社会から求められる様々な教育ニーズに対応できる教員指導力の向上を目指す。	①各種の研修を通じて、教職員の ICT 活用スキルを高める。 ②人権や教育相談の視点から生徒との関わりを再点検する。 ③学校教育目標に掲げる5つの力の育成を意識した教員研修を計画・実施する。	①各種の研修定期的に開催し、教職員の ICT 活用スキルを高める。 ②様々な研修会を通して、人権や教育相談といった視点から、これまでの教育活動を見直す機会とする。 ③職員会議など定例の会議を活用し、短時間での研修を行い、生徒がメタ認知できるような活動内容・評価方法を検討していく。	①教職員対象の ICT 活用スキルを高める研修を実施できたか、また教職員の ICT 活用状況から図る。 ②研修を通じて、職員の共通理解が深まったか。 ③教員対象の研修を実施できたか、また教員の取り組みの内容を共有できる体制を整えることができたか。